

2016年6月5日 聖霊降臨後第3主日

福音書 ルカ6章37-49節

第1の日課 エレミヤ7章1-7節

第2の日課 Iコリント15章12-20節

「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。」

ルカによる福音書 6:38

ねらい

- ・わたしたちの愛の相手は、家族や自分と同じ価値観を持つ親しい友人、知人だけとってしまう。しかし、イエスさまは、すべての人が愛の相手であると教えてくださった。そのことに気づいて欲しい。
- ・わたしたちが別け隔てなく「与える」ためには、他者を別け隔てなく受け入れなければならない。大前提として愛がなければならない。ここからすべてが始まっていくことを伝えたい。

説教作成のヒント

- ・「与える」ということを考えるときに、ただ物質的なやり取りだけではなく、そこには気持ちの交わりがあることに気づいてもらう。
- ・キリストは十字架で誰に何を与えてくださったのか。ここが説教の中心ではなからうか。
- ・キリストの愛に照らされ、キリストの愛は、わたしたちの愛の相手をさらに見出していくことを伝えたい。

豆知識

- ・ルカの平地の説教の箇所より。これはマタイの山上の説教と対比される箇所。
- ・原文で「(あなたがたは) 与えなさい」とイエスさまが命じられた時、「誰に」、「何を」が省略されている。これらが省略されることで、この命令は普遍性を得ている。

説教

みなさんは、お友だちや家族とプレゼント交換をしたことがありますか。わたしたちはプレゼントをしあうことで、とても温かな気持ちになります。それはなぜでしょうか。わたしたちがプレゼントをするのは、相手を思いやる気持ちがあるからできるのではないのでしょうか。きっと、少し苦手だなあと思う相手には、プレゼントをするのをためらう人もいないのでしょうか。わたしたちは普段何気なくするプレゼントで、そういう相手を思いやる気持ちに気づくこともできるのです。実は、わたしたちが何かをプレゼントをするときには、気持ちも一緒にプレゼントしているのです。

さて、今日、イエスさまはわたしたちに「与えなさい」とおっしゃいます。イエスさまは誰に与えなさいとか、言っていません。わたしたちが、大事なもの、大切な気持ちを届ける相手は、限られた仲良しのお友だちだけではないのです。ひょっとしたら、少し苦手だなあと思うお友だちにも、顔も知らないお友だちにも、わたしたちの大切な愛を届けなさいとイエスさまはおっしゃっているのではないのでしょうか。

今日わたしたちに「与えなさい」とおっしゃるイエスさまは、わたしたちにご自身の大切ないのちをもお与えくださるお方です。イエスさまの十字架への歩みは、イエスさまがその大切ないのちをプレゼントとしてわたしたちに与えてくださる歩みでした。その大切なプレゼントを差し出すイエスさまには、わたしたちへの愛があったのです。今日も、わたしたちは、イエスさまの愛と大切ないのちをプレゼントとして頂いているのです。

このような神さまの愛をたくさん頂いているわたしたちです。このようなわたしたちですから、大好きなお友だちはもとより、ちょっと苦手だなあと思うお友だちや、話したこともないお友だちにも優しい気持ちで接する

ことができるのかもしれませんが。このようなわたしたちに神さまは思いもよらないご褒美を用意してくださると、イエスさまは約束してくださいました。「あなたがたにも与えられる」と。

## 分級への展開

### さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□129番 「どんどこどんどこ」

□106番（改訂版） 「どんどこどんどこ」

### やってみよう

#### ☆コラージュをつくろう

<用意するもの>

模造紙(5～6人の場合：人数によっては半分の大きさに切ったり調節してください。)新聞、古雑誌、チラシなど、のり、はさみ、マジック

・テーマ「神さまから与えられているもの」(みんなで、1枚の模造紙を用います。)テーマに合うものを雑誌などから切り取ってどンドン貼っていきます。貼り方も書き込みも自由です。どんな作品ができるかな?

□6月の第2曜日は、「花の日」です。お花を持って、近くの老人ホームなどの施設を訪問したりいつもお世話になっている教会の方にお花をプレゼントしても良いですね。

### 話してみよう

- ・今日のみことば「与えなさい。そうすればあなたがたも与えられる。」とはどういう意味か考えてみましょう。
- ・良いことをした分だけ、自分にも良いことが返ってくるのかな?
- ・たとえば、お友達からおやつを分けてもらったらうれしいよね?じゃあ、今度は自分のおやつをお友達に分けてあげたら、お友達は嬉しい?お友達が嬉しそうにしていたら、みんなも嬉しい?
- ・神さまから与えられているものってどんなものがあるか考えてみよう。
- ・すでに、ありのままの私たちを神さまは愛されているのです。

2016年6月12日 聖霊降臨後第4主日

福音書 ルカ7章1-10節

第1の日課 列王記上8章41-43節

第2の日課 ガラテヤ1章1-10節

「ひと言おっしゃってください。そして、わたしの僕をいやしてください。」

ルカによる福音書 7:7

ねらい

- ・とにかく、百人隊長の信仰に焦点を当てること。
- ・イエスさまはこの百人隊長を指して、「言っておくが、イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない」とおっしゃった。この信仰はどのような信仰だろうか。

説教作成のヒント

- ・百人隊長は、「わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません」と告白した。彼は、神さまの御子の御前に、大手を振って出ていけるような人ではないと知っていた。
- ・この百人隊長は、一体誰のためにイエスさまの癒しと救いを求めたのか。それは、自分自身のためではなく、

愛する部下のため。この指揮官にとって、部下はただの駒の一つではなく、大切なかけがえのない一人の人間だった。

## 豆知識

・百人隊長は百人程度の部隊を束ねている指揮官のこと。出エジプト記18章や、マカバイ記一3章には、百人隊長に加えて、十人隊長、五十人隊長、千人隊長などの記述も見られる。当時のヨーロッパや中東の各国で、このような軍の組織が見られたことであろう。

## 説教

皆さんは、スーパーやおもちゃ屋さんで、おねだりをしたことがありますか。今日の軍隊の隊長さんも、イエスさまにおねだりをしているようです。しかし、わたしたちのおねだりと、今日の隊長さんのおねだりは少し違うようです。

わたしたちが、何かをおねだりをするときのおねだりは、「あれが欲しい、これが欲しい。あれがあればきっと幸せになれる」という、自分のためのおねだりです。ところが、今日の隊長さんのおねだりは、自分のためのおねだりではありませんでした。「わたしの家来が病気で死にそうです。どうか助けてください」というおねだりでした。このおねだりは隊長自身のためのおねだりではなく、部下と部下の家族のためのおねだりでした。

わたしたちが神さまに対してするおねだりのことを、教会では「お祈り」と呼んでいます。わたしたちが神さまに何かお願いをするときには、当然わたしたち自身のことでもお願いします。それだけではありません。自分の身の回りで困っている人のためにもお祈りします。わたしたちは、神さまを、そして、イエスさまを、わたしたちの心にお迎えするようなものではないのにお祈りをします。このわたしたちの心からのおねだりであるお祈りに対して、イエスさまがわたしたちに心を留め、たった一言でも口を開いてくださったならば、すべてのことを、神さまは良くしてくださるのです。

隊長さんはイエスさまにいいました。「ひと言おっしゃってください」。この隊長さんの思いは、イエスさまに届きました。そして、イエスさまはひと言を口にすると、隊長さんの部下の病気は治りました。わたしたちの回りの人を大切に思う思いと、イエスさまへの心からの願いに、イエスさまが心を留めてくださる時、人間ができないことでも、イエスさまは成し遂げてくださるのです。

## 分級への展開

### さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□6番 「しゅをほめたたえよ」

□32番（改訂版） 「すべての人よ」

### やってみよう

#### ☆好き好き伝言ゲーム

①みんなで輪になって、手をつなぎます。

②百人隊長を1人決めます。

③百人隊長は、好きな数だけ隣の人の手を「ぎゅっ」と握ります。

④最後の人は、握った数だけ「好き」といいます。1回なら「好き」2回なら「好き好き」3回なら「好き好き好き」

⑤正解したら、百人隊長を変わります。

百人隊長のように、人を愛するという気持ちは、不思議なことに周りの人々の心をどんどんあたたかくして、伝わっていきますね。

## 話してみよう

- ・百人隊長は、どんな人だったでしょうか？
- ・百人隊長は、イエス様のことをどのような人だと思っていたでしょうか？
- ・百人隊長のように、自分以外の人を愛し、お互いに思いあえたらどんな気持ちでしょうか？
- ・みんなにとって、教会のお友達は特別な存在ですか？

2016年6月19日 聖霊降臨後第5主日

福音書 ルカ7章11-17節

第1の日課 列王記上17章17-24節

第2の日課 ガラテヤ1章11-24節

イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。

ルカによる福音書 7:14

## ねらい

- ・この箇所大切なポイントの一つは、イエスさまが母親を見て憐れに思われたこと。
- ・母親に神さまの奇跡が現れたのはなぜだろうか。ここを考えていくと説教が深められるように思える。

## 説教作成のヒント

- ・イエスさまは、百人隊長の信仰を褒めてくださり、そこに奇跡が現れた。この母親はどうだろうか。人生の伴侶を失い、今や一人息子も失ってしまった。この悲しみのどん底にある母親にも、イエスさまはやってこられ、息子を生き返らせた。
- ・わたしたちの悲しみも、キリストの救いのきっかけでありうるということではなかろうか。

## 豆知識

- ・この箇所とよく比較して論じられるのは、列王記上17章のエリヤとサレプタのやもめの箇所。神さまに懇願したエリヤに対して、イエスさまは女性に「起きなさい」と宣言された。イエスさまの神さまとしてのお力を感じるところである。

## 説教

わたしたちは、とても悲しい時、誰とも話したくないことがあります。お友だちとケンカしたり、家族に怒られたりしてシクシク泣いていると、回りの人たちに心を固く閉ざしてしまうこともあります。そのようなときに、わたしたちは、家族や回りのお友だちから声を掛けられても、知らんぷりしてしまうことがよくあります。

昔、ナインという町に一人の女性がいました。一人息子だけがこの女性の家族でした。ある日、この息子が亡くなりました。もう、息子には体温がなく、冷たくなっています。声をかけても返事もしません。昨日までは、この息子にもぬくもりがあり、呼びかけたら返事をしたことでしょう。この息子の死を境に、この女性に大きな悲しみが襲いました。女性はただ泣くことしかできません。今日は、その一人息子の葬式です。お墓に収めるために、町の外に運んでいる時、イエスさまがやってこられたのです。この女性にどう話しかけ、慰めたらいいのかわからずに困っていた人たちもきっとたくさんいたことでしょう。しかし、イエスさまは、この悲しむ女性の傍らに近寄ってきて、「もう泣かなくともよい」と慰めてくださいました。それだけではありません。イエスさまは、冷たくなった一人息子に「起きなさい」と語られると、なんと息子が生き返ったのです。

イエスさまの救いと奇跡がやってくるのは、神さまを信じる心が強い人だけではありません。心が悲しみに満たされ、心を閉ざし、神さまを頼る以外に何もできない人にだって、イエスさまはやってきて寄り添って、慰めてくださいます。イエスさまの慰めを知っているこの女性、そして、わたしたちこそ、今度は泣いて困っているお友だちに、優しく寄り添うことができるのではないのでしょうか。また、その時、何も言葉がなくなると、イエスさまの安らぎを分かち合えるのではないかと思います。

## 分級への展開

### さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□119番 「やさしいめが」

□114番（改訂版） 「やさしい目が」

### やってみよう

#### ☆くるくるうちわを作ろう

<用意するもの>

直径20センチくらいの丸い画用紙(1人2枚)、わりばし、セロテープ、のり、マジック

①1枚に泣いている顔を描く。もう1枚には、笑った顔を描く。

②片側に笑った顔、片側に泣いた顔がくるように、1枚の裏側にわりばしをセロテープで貼り付け、もう1枚の裏側と合わせて、のりで貼りあわせる。

※画用紙のかわりに、発泡スチロールを使うと立体的になるよ。

イエス様は、悲しいときも「泣かなくていいよ。大丈夫だよ。」って言ってくださいます。イエス様によって、私たちはニコニコ顔に変えられるのです。

◇今日は、父の日です。お手紙やカードを書いて感謝の気持ちを伝えましょう。

### 話してみよう

- ・たった1人の息子をなくした母親（やもめ）は、どんな気持ちだったでしょう？
- ・イエス様に、「もう泣かなくてよい」と言われた母親の気持ちを考えてみましょう。
- ・イエス様と出会う前の母親とイエス様と出会った後の母親の人生は、どんな風が変わったか話してみよう。

2016年6月26日 聖霊降臨後第6主日

福音書 ルカ7章36－50節

第1の日課 サムエル下11章26節－12章13節

第2の日課 ガラテヤ2章11－21節

イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

ルカによる福音書 7:50

### ねらい

- ・この当時たくさんの罪人とされる人たちがいて、社会から偏見の眼差しを向けられ、苦しんでいた。イエスさまはこれらの罪人と呼ばれたたくさんの人たちの思いを受け入れてくださったことを伝えたい。
- ・また、この女性たちを軽蔑していた人たちも、神さまの前に罪人でしかないことを伝えたい。

説教作成のヒント

- ・この女性が、どれだけ社会の偏見に苦しんでおり、社会から背負わされた罪に苦しんでいたのか。
- ・この女性も、シモンも、そして、わたしたちも神さまにとっては同じ罪人でしかないことを伝える。
- ・この女性にあった信仰とは一体なんだろうか。

## 豆知識

- ・1デナリオンはローマの銀貨で一日の賃金に相当した。50デナリオンは約二ヶ月分の月収に相当し、500デナリオンはその十倍。
- ・通常、ここに登場する女性を娼婦と解釈するのが一般的のようである。こどもたちに伝える必要はないが、説教をする側はこの点を意識しておく必要もあるかもしれない。

## 説教

五十歩百歩という中国のお話があります。敵から五十歩逃げた人が、百歩逃げた人を笑ったが、似たようなものだというお話です。今日の話から、ふと思い出しました。

イエスさまは食事に招かれ、シモンと共に食事をしました。そこに、女性がやってきました。この女性はイエスさまの足に大切な香油を塗ってあげました。ところが、この女性は、たくさんの人たちから快く思われていなかったようです。この女性が食事の席にいるのですから、シモンも面白くありません。イエスさまはシモンの様子をご覧になられ、おっしゃいました。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである」。イエスさまは、シモンも、女性も五十歩百歩、似たようなものですよと教えてくださいました。借りたお金が違うだけで、同じお金貸しから、お金を借りているんですよと教えてくださいました。

イエスさまのお話はここでは終わりません。その二人の借金は帳消しされるというのです。ここでお金を借りるということは、わたしたちの背中に大きな荷物を背負うことと同じではないかと思えます。ある人が荷物を背負っていました。またある別の人はその十倍の荷物を背負っていました。その重荷を降ろした時、どちらの人が大きく喜ぶのでしょうか。重い荷物を背負っていた人の方が大喜びするのです。

神さまから借りている借金、わたしたちの背中の重い荷物、これがわたしたちの罪ということではないでしょうか。罪が赦された人には、借金が赦され、重い荷物を降ろしたような安心がやってくるのです。女性はイエスさまこそ、大きな荷物が降してくださるとすべてを任せました。イエスさまはこの女性の信仰をご覧になられ、すべての罪を赦されました。罪が赦されたこの女性には安心がやってきたのです。

## 分級への展開

### さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□53番 「しゅにしたがいゆくは」

□119番（改訂版） 「主に従うことは」

### やってみよう

#### ☆違うとこさがし

- ・2人ずつでてきてもらい、違うところをあげてもらおう。（できるだけ、タイプの違う子どもおし）
- ・じゃあ、逆に似ているところはどんなところかな？
- ・写真などで、違う国のこどもや老人、病気の人などを紹介して自分たちと違うところを探してみても良いですね。
- ・みんな一人一人ちがうけど、みんな神さまの愛するこどもなんだよ。うれしいね。

#### ☆よろこびハートをつくらう

<用意するもの>

画用紙、絵の具

①画用紙を1度半分に折って開き、ハートを描く。

②ハートの外側に、うれしい気持ちを言葉で書く。(ウキウキ、ワクワク、ありがとうなど)

③片側のハートの半分に、好きな色の絵の具を何色か直接、押し出すようにつける。

④半分に折って開くとできあがり！神さまの大きな愛が、世界中のみんなに伝わるように、お祈りしましょう。

**話してみよう**

- ・今日の聖書に出てくるシモンさんと罪深い女の人のがうところはどんなところかを話してみよう。(シモン…正しい人、まじめな人、毎週礼拝に行っていた人など女の人…悪いことばかりしてきた人)
- ・では、二人の同じところは何だと思えますか？(二人とも神さまから愛されている)
- ・イエス様に罪を赦された女の方は、どんな気持ちだったでしょう？